医療制度Q&A

社会保障カード

情報管理の安全面心配

拙速避け国民の合意を

【質問】国が「社会保障カード」の導入を検討中とのことですが、情報管理の安全面が心配です。詳しく教えてください。

（42歳・会社員）

【回答】社会保障カードとは、年金手帳や健康保険証、介護保険証の役割を一枚に集約したカードのことで、国は二〇一一年をめどに導入する方針です。

社会保障カード導入のメリットはいろいろあります。一般市民は自宅のパソコンで年金記録や自分の医療費、健診結果などを確認できるようになります。

すが、行政による社会保障の運営状況を国民が監視することが可能になるのです。行政の事務経費も節減できるでしょう。

これまで検討されているところでは、カードには新たに個人に割り振った識別番号（社会保障番号）などの最小限の情報しか記録されません。情報を入手するにはまず中継データベースにアクセスし、そこから年金や医療など個別の情報を得る仕組みとなります。こうすることによって社会保障カードの最大のリスクである情報もれや不正利用を防止することが可能になるとしています。

各制度の保険料をこれまでいくら納付し、医療などの公的サービスをどれだけ受けてきたか、年金はいくら受け取れるのかーといった情報も取り出せます。社会保険庁の年金管理のずさんさが問題になっていま す。

医療と介護にかかった費用を合算して負担が重すぎる分を払い戻すといった、複数の制度にまたがる措置も受けやすくなります。医療機関は保険証の資格確認が正確かつ容易となりま

社会保障カードはほとんどの先進国で積極的に利用されています。ただ、米国のように行政、民間サービスの両方で幅広く利用されていたり、ヨーロッパのように行政に限られるなど利用範囲はさまざまです。

日本では、国による個人情報の一元管理に対する不信感が根強くあるため、導入はスムーズに進みそうもありません。まずは国民に仕組みを丁寧に説明して不安感を取り除くべきでしょう。カード導入に伴うコストも提示しなければいけません。拙速を避けて、国民の合意を得る必要があります。

（県医師会）